

2024年11月22日

## The Emerging Markets Weekly

### ウクライナ情勢を巡る懸念の高まりと米金利上昇を受けて軟調

**新興国市場:**先週末 15 日のアジア時間は中国 10 月小売売上高が市場予想を上回ったことが支えとなり新興国通貨は上昇。THB が大幅に値を上げた。欧米時間、トランプ・トレードが一服をみせ堅調な推移。ZAR が値を伸ばした。一方、RUB は前日比▲1.1%下落。週初 18 日アジア時間、目新しい材料がない中、方向感なく小幅な推移となった。SGD や KRW が買われた。他方、TWD は軟調。欧米時間、米金利が低下に転じたことや、商品市況の堅調が支えとなり総じて上昇。ZAR は前日比+1.3%、BRL や MXN も値を伸ばした。19 日アジア時間は、前日の流れが継続し小幅に上昇した。THB が堅調。欧米時間、ウクライナ情勢悪化への懸念が高まりリスクオフとなるもその後懸念が後退しまちまちな動きとなった。MXN が上昇する一方、RUB や ZAR は値を下げた。20 日アジア時間は米金利上昇を受けて小幅下落。KRW や SGD が売られた。欧米時間、ウクライナによる英国製長距離ミサイル発射が報じられるとリスク心理が悪化し下押しされた。MXN の下落が目立った。21 日アジア時間は方向感なく大半が小幅な値動きとなった。IDR が小幅に下落。また、PHP は 2022 年 10 月以来となる対ドルで 59.00 付近まで下落した。欧州時間、ウクライナ情勢への懸念が重しとなりユーロに連れて東欧通貨が下落。米国時間は米金利が上昇、リスクオフの動きと相まって軟調な動き。RUB や BRL、MXN が値を下げた。

**アジア:**15 日発表の中国 10 月鉱工業生産は前年比+5.3%と前月から減速し、市場予想も下回った。同日公表の中国 10 月小売売上高は前年比+4.8%と前月から加速、市場予想を上振れた。2 か月連続で前月から拡大した。18 日公表のタイ 7~9 月期実質 GDP 成長率は前年比+3.0%と 4~6 月期から加速し、市場予想(同+2.4%)を上回り 2022 年 7~9 月期以来の高い伸び率となった。中国人民銀行(PBoC)は 20 日、ローンプライムレート(1 年物 3.10%、5 年物 3.60%)をそれぞれ据え置いた。インドネシア中央銀行(BI)は同日、政策金利を 6.00%に据え置くことを決定した。据え置きは 2 会合連続。

**中東欧・アフリカ:**大手格付会社は南アフリカの格付け見通しを「安定的」から「ポジティブ」に引き上げた。これが好感され ZAR は上昇した。ロシアのプーチン大統領は 19 日、「核抑止力の国家政策指針」(核ドクトリン)を改定し、核兵器使用の条件を緩和した。その後も新型ミサイルによるウクライナ攻撃が報じられるなど衝突は激化している。20 日発表の南アフリカ 10 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.8%と市場予想を下振れた。トルコ中央銀行(TCMB)は 21 日、政策金利を 50.00%に据え置くことを決定。南アフリカ準備銀行(SARB,中央銀行)は同日、政策金利を▲25bp 引き下げ 7.75%にすることを決定した。

**ラテンアメリカ:**メキシコ政府は 15 日、2025 年度予算案を公表した。2025 年度の財政収支は対 GDP 比▲3.9%と 2024 年度の同▲5.9%から赤字幅を縮小する見込みとなった。

金融市場部  
シニアマーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
03-3242-7065  
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト  
長谷川 久悟  
03-3242-7065  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜  
03-3242-7065  
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部  
シニア為替ストラテジスト  
中島 将行  
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

## 市場概観(メキシコ)

### 2025年予算案公表を受けて

金融市場部  
マーケット・エコノミスト  
長谷川 久悟  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

#### ～前提条件の甘さが目立つ 2025年予算案～

11月15日(金)、メキシコ政府は2025年の予算案を公表した。注目される財政収支、および公的債務の見通しは、それぞれ▲3.9%、51.4%(対GDP比、以下同様)とされている(図表1)。いずれも、2024年の予測値からは改善する見通しだ。10月15日に公表された国際通貨基金(IMF)による4条協議の声明文に基づけば、2024年の予測値はそれぞれ▲5.9%、58%となっている。

ロペス・オブラドール前大統領(通称アムロ)政権では、財政拡張的な政策が志向され、財政収支が大きく悪化した経緯がある(図表2)。10月よりシェインバウム政権に移行したものの、今回の予算案には依然アムロ体制の残滓が見え隠れする。社会扶助関連の支出に8000億MXN以上が割り当てられていることが、その象徴であろう。

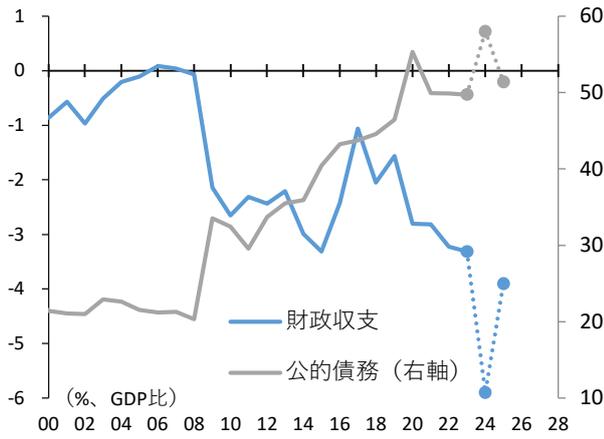
そしてより重要なのは、今回の予算案の前提になる成長率見通しが楽観的過ぎることだ。予算案によれば、2025年のGDP成長率見通しは+2.0～3.0%とされているが、メキシコ中央銀行(Banxico)のそれは+1.2%(8月時点)、IMFのそれは+1.3%(10月時点)だ。予算案の前提は、あまりにも強気すぎる。分母のGDPが小さくなれば、財政収支、および公的債務の水準は悪化せざるを得ない。現状、2025年予算案におけるそれらの見通しは、「絵に描いた餅」と解釈するのが妥当な評価であろう。

#### 格付見直し引き下げに関して～格下げの可能性も視野に入る～

ところで、予算案公表前日の14日(木)、米大手格付会社のMoody's(日本では無登録の格付会社)はメキシコの外貨建て長期債務の信用格付見直しを、従来の「安定的」から「ネガティブ」に引き下げた。格付自体は、「Baa2」で据え置かれている。同社の公表資料を読む限り、一連の司法制度改革に伴い、経済と財政に悪影響が及ぶ可能性が高まったことを受けた措置と解釈できる。加えて、石油公社ペメックスに対する支援が国家財政の重しになるとの見通しも、引き下げの主因と言及されている。そして現に、上述の2025年予算案では、債務返済に苦しむペメックスに対する1360億MXNの支援が計上されている。Moody'sの懸念は、既に現実味を帯び始めている。

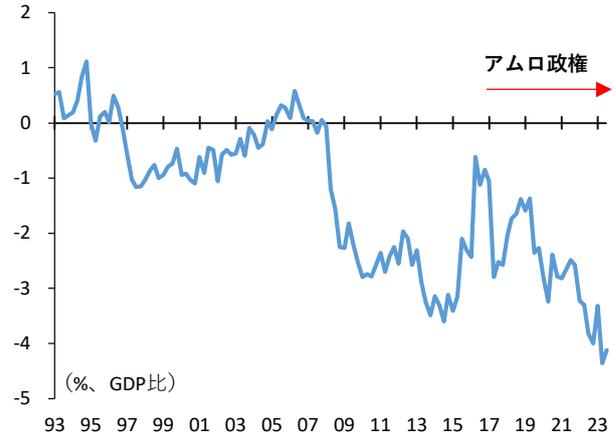
公表資料の末尾には「格付けの引き上げまたは引き下げを引き起こす可能性のある要因」と題されたパラグラフがある。格下げをもたらす要因として、財政赤字の拡大、および政府債務の積み上がりなどを指摘したが、それ以外には、「米国との貿易関係の変化による混乱」にも言及されている。より一般化した記載として、投資環境の悪化が中期的な成長率を押し下げるケースを、格下げ圧力として言及している。米新政権がメキシコに対しどのように接するかは依然不透明感が強いが、メキシコの内政に目を移せば、財政に対するスタンスは上述の通り甘さが目立つ。今後、Moody'sによって格付けが引き下げられる可能性は、比較的高いと考えている。もっとも、1段階の引き下げであれば、ぎりぎり投資適格級を維持できる。金融市場が混乱に陥るとは考えていない。

図表 1: 財政収支と公的債務残高の実績と見通し(年次)



出所: CEIC、みずほ銀行 ※点線は見通し

図表 2: 財政収支の推移(四半期)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

## 市場概観(インドネシア)

### 11月金融政策会合～BIは利下げ余地の狭まりを強調～

金融市場部  
マーケット・エコノミスト  
長谷川 久悟  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は19～20日に開催した金融政策会合で、政策金利のBIレートを従来の6.00%で据え置いた(図表1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も、それぞれ6.75%、5.25%に据え置かれている。9月会合では実に3年半ぶりに利下げに至ったが、その後2回連続で利下げが見送られた格好だ。なお、ブルームバーグ集計の事前予想では政策金利の据え置きが優勢であったが、▲25bpの利下げを見込む向きも一部あった。

声明文およびペリーBI総裁の会見では、IDRの安定化やインフレ情勢、FRBの動向に対する言及が目立った。BIは声明文の中で、米利下げ期待の後退、および米大統領選挙の結果を受け、多くの新興国で資金流出がみられている、と指摘した。実際、前回10月会合以降のIDR相場を確認すると、11月15日には一時15943と約3か月ぶりの安値を付けている(図表2)。外国人投資家によるインドネシア株式の売り越し、および米金利の上昇が重しとなった模様だ。なお最近では、BI高官からIDR買い為替介入を行っている旨の情報発信も確認できている。金融および通貨政策両面で、IDRの下落を回避しようと努力している様子が強く観察できよう。

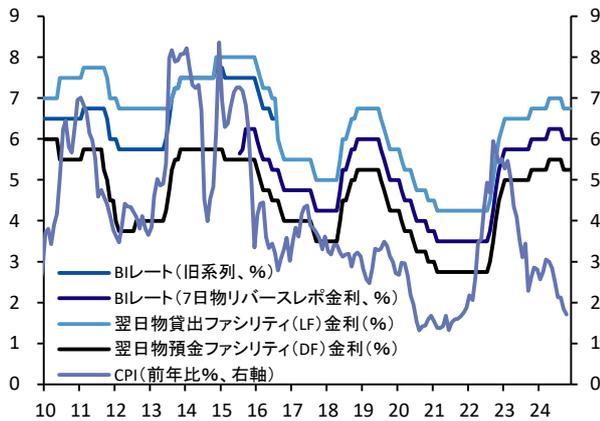
物価動向を見ると、直近公表の10月消費者物価指数(CPI)は+1.71%(前年比、以下同様)と市場予想の+1.66%を上回ったものの、9月の+1.84%を下回った(図表3)。BIのインフレ目標(+1.5～+3.5%)にも、引き続き収まっている。また、変動の激しい食料品価格と政府の統制価格を除くコアCPIについては、+2.21%と市場予想および9月の+2.09%を上回った。コアの前年比の伸びは15か月ぶりではあるが、水準としては依然十分に低い。BIも「2025年にかけてインフレ率を目標圏内に抑制する努力を約束する」と自信を示している。

最新の経済動向に関して、消費者信頼感や製造業PMIからは若干の失速感が感じられるものの、内需に急ブレーキがかかっている印象はない(図表4)。BIも、2024年の成長率見通しを+4.7%～+5.5%と前回会合から据え置いた上で、「10～12月期の成長率も、年末の政府消費増加に支えられ、引き続き好調に推移する」と強気な姿勢を示している。なお、2025年に関しても、「成長が加速する」との見解を示している。

以上を踏まえペリー総裁は、今回の据え置きに関し「2025年に向けインフレを目標圏内に抑えるというスタンスに沿った決定」と説明した。そのうえで、「成長率やインフレ率に鑑みれば利下げ余地はあるが、現在の焦点はIDRの安定」とも言及した。前回会合以降のIDR安が、今回会合での据え置きの判断に寄与した可能性は非常に高いだろう。先々の金融政策に関しては、「さらなる利下げ余地を評価し続けている」と利下げ路線の継続を示唆したものの、「利下げの余地は、これまでよりも限定的」ともくぎを刺した。FRBの金融政策に関しては、年内は▲25bp×1回の利下げを、2025年には▲25bp×2回の利下げを予想していると述べた。前回会合時点では、2025年に関しては3～4回の利下げを見込んでいた経緯もあるだけに、FRBの利下げ余地が狭まっていると評価しているようだ。以上の情報発信を踏まえれば、BIは米金融政策動向および自国通貨の値動きを意識した政策を続けていく公算が大きい。IDR安

の加速が無ければ、BIは12月に追加利下げ(▲25bp)を行えるだろう。2025年も利下げそのものは行えようが、BIによる米金融政策の評価に鑑みれば、利下げ余地は明らかに狭まっていると考えられる。年央にかけ2回(計▲50bp)の利下げをまぶしていき、政策金利が5.25%に達した時点で、利下げは一旦打ち止めになると予測したい。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)の推移



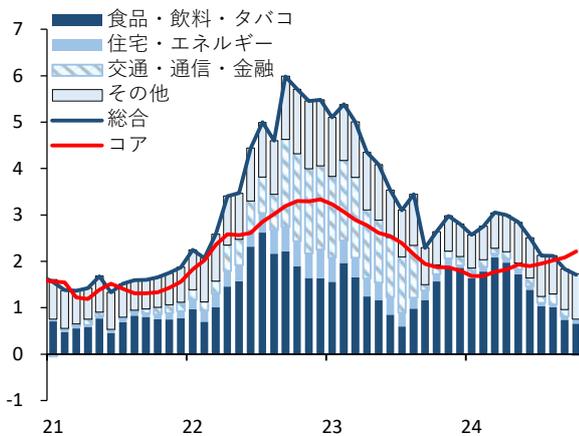
出所: インドネシア銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: IDR相場と米金利の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 消費者信頼感指数の推移



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

## 市場概観(フィリピン)

### 2年1か月ぶりの安値を更新した PHP 相場

金融市場部  
マーケット・エコノミスト  
長谷川 久悟  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

PHP は、11 月 21 日の取引でも対ドルで下落してオープンしており、本稿執筆時点（日本時間 21 日 11 時 30 分時点）では 58.98 付近で推移している。2022 年 10 月 20 日以来、実に 2 年 1 か月ぶりの安値更新である（図表 1）。本稿では、その背景について簡単に要素を記載したい。

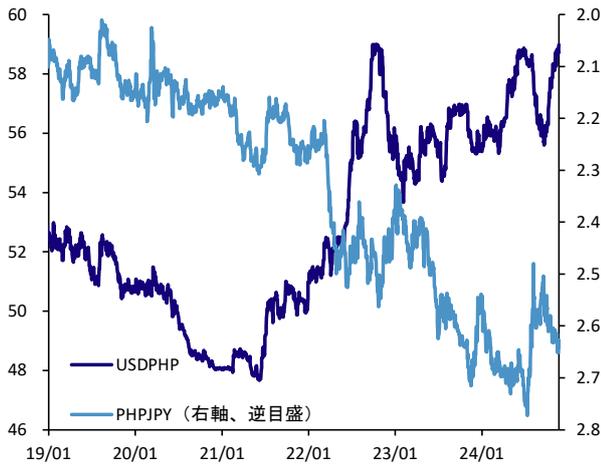
まず外部要因であるが、米金利上昇、および市場心理の悪化が新興国通貨全般の重しになっていることに議論の余地はないだろう。この点は、市場参加者の誰もが理解していると推察するので、詳細は省く。

次に内部要因である。主に、①金利の先安観、および②海外投資家によるフィリピン株式の売り越し、の 2 つが PHP 安に寄与している疑いがある。フィリピン中央銀行（BSP）は 10 月の金融政策会合で▲25bp の利下げを実施した（図表 2）。以降、足許にかけても利下げ路線の継続を示唆する BSP 高官の情報発信が相次いでおり、金利の先安観が台頭している。例えば 11 月 19 日、レモロナ BSP 総裁は、次回 12 月会合での利下げ判断は不透明と前置きをしつつも、2025 年に関しては計▲100bp の利下げを行う可能性がある、と述べている。確かに物価情勢は明らかに落ち着いているものの、最近のドル高を受け一部の新興國中銀はハト派姿勢を後退させている経緯もある（図表 3）。相対的に目立つ中銀のハト派スタンスが、PHP の重しになっていると考えている。

次に、②海外投資家によるフィリピン株式の売り越しである。これは数字を確認すれば明らかであるが、11 月に入って以降、売り越しの傾向が強まっている（図表 4）。9 月までの資金流入の勢いがそれなりに強かっただけに、その反動は PHP 相場に悪影響をもたらしている可能性が非常に高い。

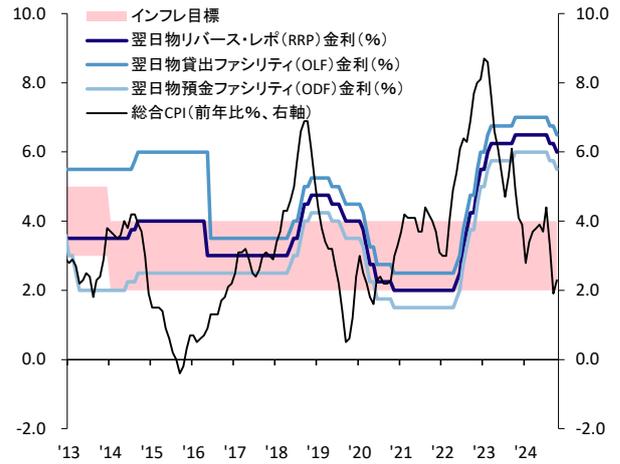
今後の PHP 相場に関しては、対ドル 59 の攻防が続こう。過去の値動きを見れば一目瞭然なのだが、59 という水準は、市場でも強く意識されていた。2022 年 9 月後半～10 月後半にかけての値動きが、最たる例だろう。当然、通貨当局による PHP 買い介入に対する警戒感も浮上してくることは想像に難くはない。一時的に 59 を突破して PHP 安が進むことは十分にあるだろうが、同水準を大きく上回って PHP 安が進む可能性は、現状ではリスクシナリオと位置付けたい。市場心理の悪化が一巡し、資金フローが回帰してくれば、PHP 安は一服すると考えている。

図表 1: PHP 相場動向



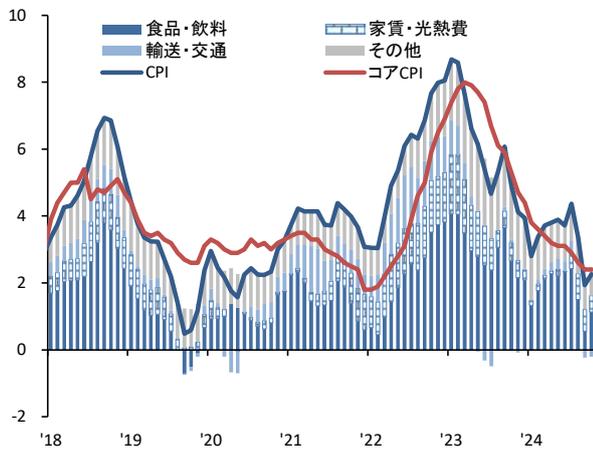
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 政策金利水準とインフレ目標



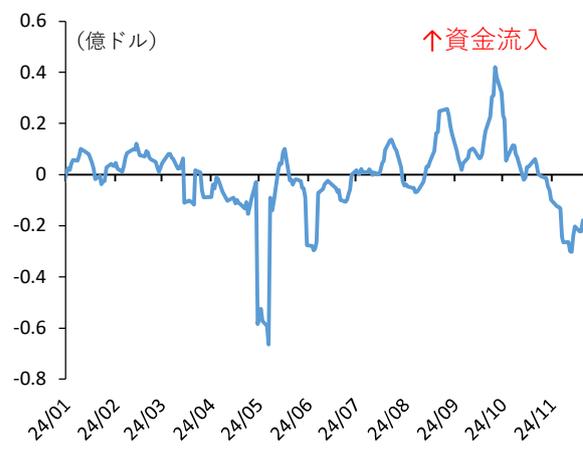
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

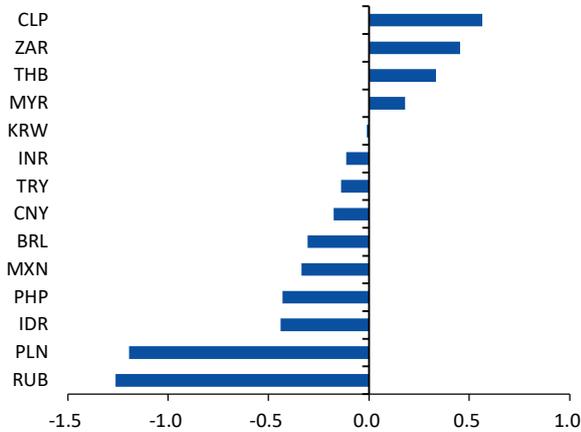
図表 4: 外国人投資家によるフィリピン株式への投資動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行 ※11月20日まで、5営業日移動平均

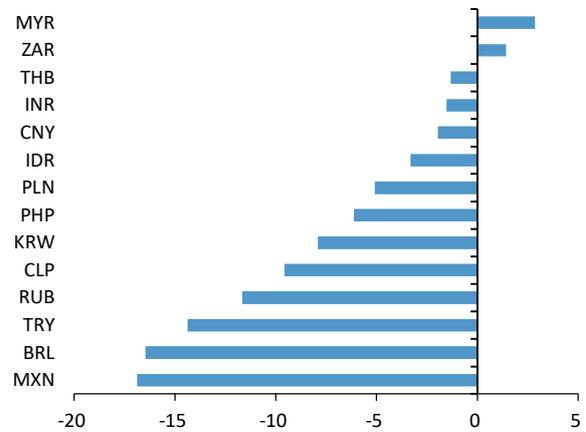
## 資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



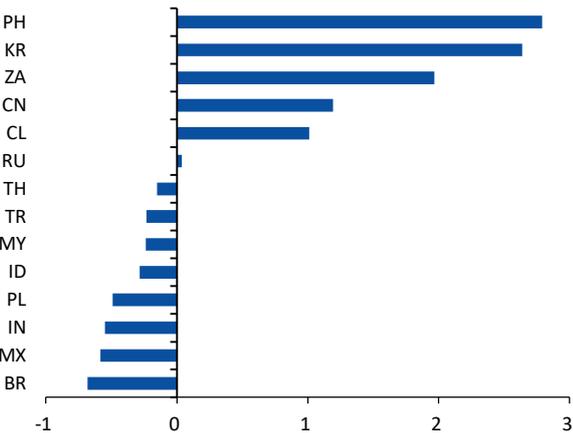
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



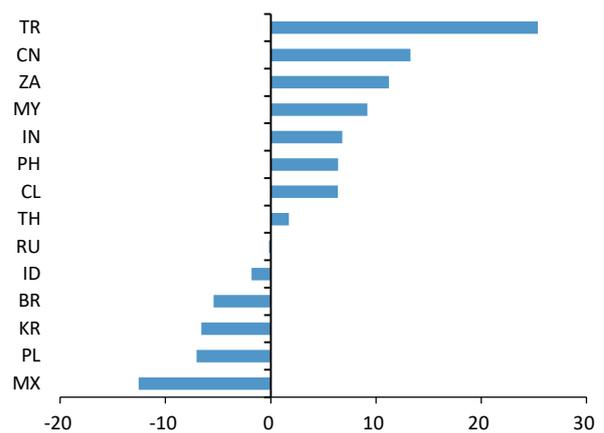
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



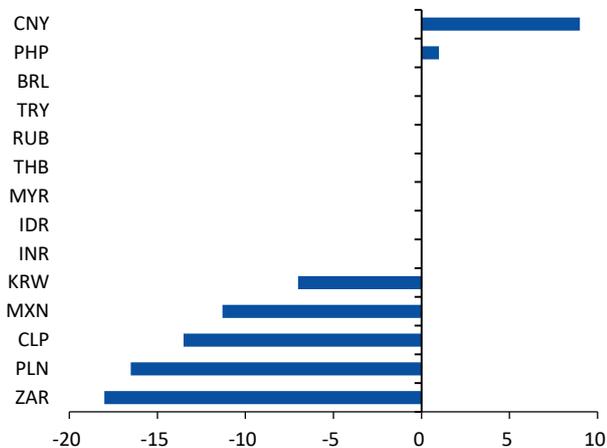
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

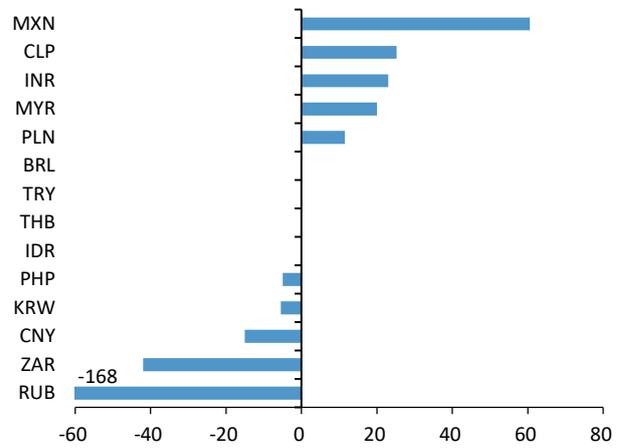
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

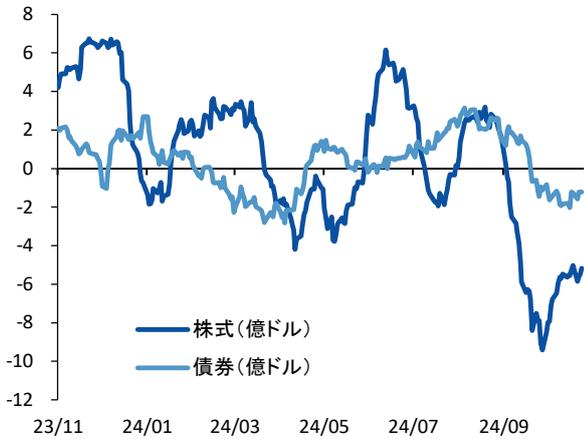


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

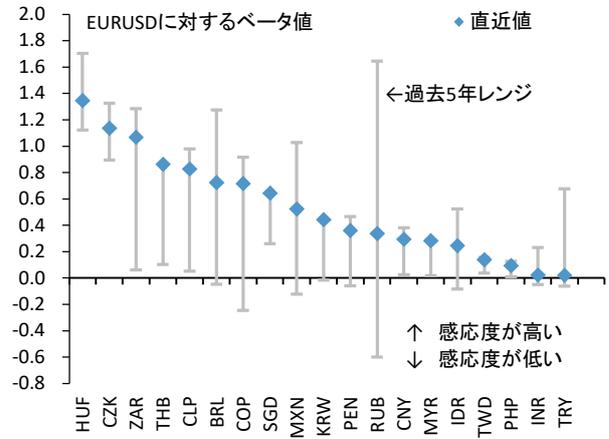
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



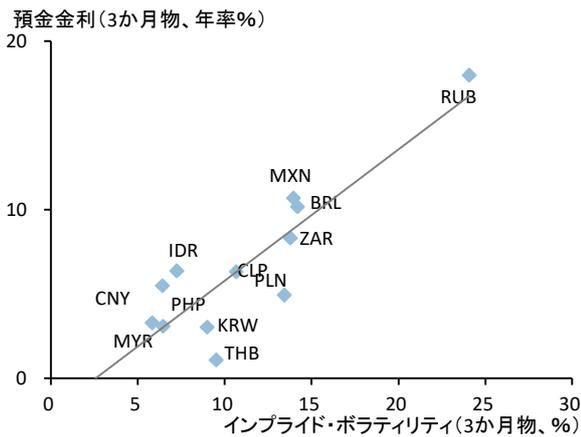
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



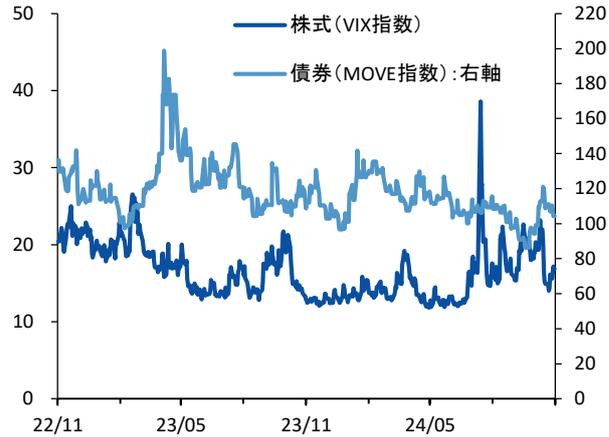
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



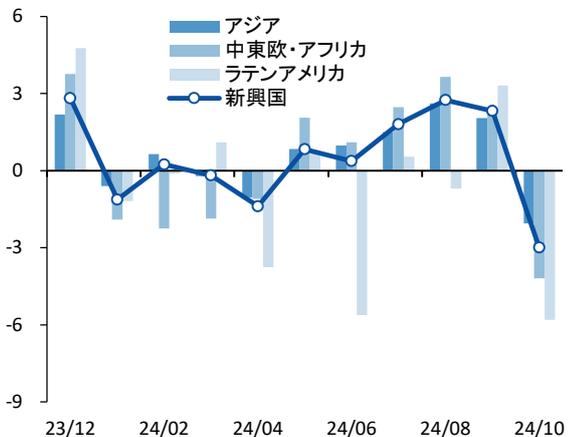
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



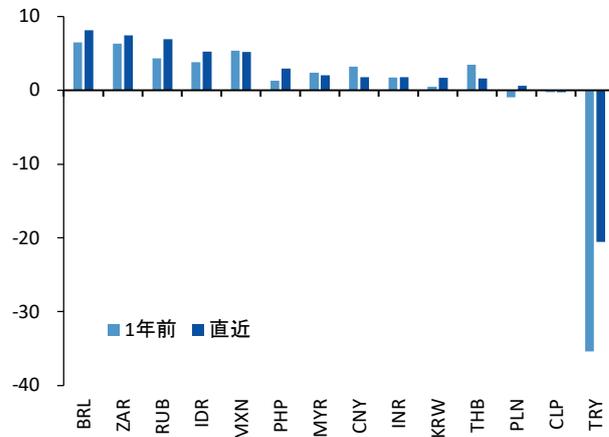
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

## 新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
<b>エマージングアジア</b>						
11月18日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	4.0%	-4.6%	2.7%	0.9%
18日 (月)	タイ	GDP(前年比)	2.4%	3.0%	2.3%	2.2%
19日 (火)	マレーシア	輸出(前年比)	2.5%	1.6%	-0.3%	-0.6%
19日 (火)	フィリピン	総合国際収支	--	\$724m	\$3526m	--
20日 (水)	韓国	PPI 前年比	--	1.0%	1.0%	--
20日 (水)	中国	1年貸出プライムレート	3.10%	3.10%	3.10%	--
20日 (水)	インドネシア	BI-Rate	6.00%	6.00%	6.00%	--
20日 (水)	台湾	輸出受注(前年比)	3.8%	4.9%	4.6%	--
22日 (金)	シンガポール	GDP(前年比)	4.7%	--	4.1%	--
22日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	1.8%	--	1.8%	--
25日 (月)	シンガポール	CPI(前年比)	--	--	2.0%	--
25日 (月)	台湾	鉱工業生産(前年比)	--	--	11.2%	--
25-29日	タイ	貿易収支(通関ベース)	--	--	\$394m	--
26日 (火)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	--	--	9.8%	--
27日 (水)	韓国	景況判断(製造業)	--	--	71	--
27日 (水)	韓国	景況判断(非製造業)	--	--	69	--
27日 (水)	中国	工業企業利益(前年比)	--	--	-27.1%	--
27日 (水)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	--	-273.3b	--
28日 (木)	韓国	BOK Base Rate	--	--	3.3%	--
29日 (金)	韓国	鉱工業生産(前年比)	--	--	-1.3%	--
29日 (金)	タイ	国際収支:経常収支	--	--	\$559m	--
29日 (金)	台湾	GDP(前年比)	--	--	4.0%	--
29日 (金)	インド	GDP(前年比)	--	--	6.7%	--
<b>中東欧・アフリカ</b>						
11月20日 (水)	南ア	CPI(前年比)	3.0%	2.8%	3.8%	--
20日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	2.7%	0.9%	3.2%	3.3%
21日 (木)	ロシア	PPI 前年比	--	2.7%	5.6%	--
21日 (木)	トルコ	1週間レホレート	50.00%	50.00%	50.00%	--
21日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	7.75%	7.75%	8.00%	--
25日 (月)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	--	100.9	--
28日 (木)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	--	--	6.5%	--
28日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	3.2%	--
28日 (木)	トルコ	貿易収支	--	--	-5.13b	--
28日 (木)	南ア	PPI 前年比	--	--	1.0%	--
29日 (金)	トルコ	GDP(前年比)	--	--	2.5%	--
29日 (金)	南ア	貿易収支(ラント)	--	--	12.8b	--
<b>ラテンアメリカ</b>						
11月21日 (木)	メキシコ	小売売上高(前年比)	-1.2%	-1.5%	-0.8%	--
22日 (金)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	1.5%	--	1.5%	--
22日 (金)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	0.4%	--	0.4%	--
25日 (月)	ブラジル	経常収支	--	--	-\$6526m	--
26日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	4.5%	--
27日 (水)	メキシコ	貿易収支	--	--	-578.9m	--
28日 (木)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	--	--	5.6%	--
28日 (木)	ブラジル	融資残高	--	--	6180b	--
29日 (金)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	62.4%	--

注: 2024年11月22日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。  
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

## 為替相場見通し

	2024年 1～10月(実績)	SPOT	2024年 12月	2025年 3月	6月	9月	12月
<b>対ドル</b>							
<b>エマージングアジア</b>							
中国人民幣 (CNY)	7.0048 ~ 7.2775	7.2393	7.20	7.16	7.08	7.03	7.05
香港ドル (HKD)	7.7611 ~ 7.8387	7.7831	7.77	7.76	7.76	7.75	7.76
インドルピー (INR)	82.649 ~ 84.108	84.498	84.1	83.3	82.5	82.8	82.4
インドネシアルピア (IDR)	15060 ~ 16481	15931	15400	15050	14980	14650	14800
韓国ウォン (KRW)	1290.39 ~ 1400.13	1401.72	1370	1350	1330	1310	1300
マレーシアリング (MYR)	4.0947 ~ 4.8053	4.4630	4.24	4.08	4.02	3.94	3.97
フィリピンペソ (PHP)	55.300 ~ 58.923	58.995	57.0	56.2	55.0	54.2	54.8
シンガポールドル (SGD)	1.2789 ~ 1.3670	1.3455	1.32	1.31	1.30	1.29	1.29
台湾ドル (TWD)	30.518 ~ 32.922	32.551	32.0	31.6	31.3	30.8	30.5
タイバーツ (THB)	32.14 ~ 37.25	34.73	33.6	33.4	33.0	32.1	32.1
ベトナムドン (VND)	24260 ~ 25477	25418	25100	24800	24470	24300	24400
<b>中東欧・アフリカ</b>							
ロシアルーブル (RUB)	82.6604 ~ 100.2751	101.2785	97.0	98.0	99.0	100.0	101.0
南アフリカランド (ZAR)	17.0356 ~ 19.3899	18.1111	17.8	17.6	17.4	17.2	17.0
トルコリラ (TRY)	29.6646 ~ 34.4898	34.5396	34.0	33.5	33.0	32.5	32.0
<b>ラテンアメリカ</b>							
ブラジルレアル (BRL)	4.8317 ~ 5.8588	5.8142	5.70	5.55	5.40	5.45	5.50
メキシコペソ (MXN)	16.2616 ~ 20.2278	20.4156	19.6	19.2	19.0	19.3	19.5
<b>対円</b>							
<b>エマージングアジア</b>							
中国人民幣 (CNY)	19.666 ~ 22.256	21.341	21.11	20.95	21.33	21.76	21.99
香港ドル (HKD)	17.905 ~ 20.733	19.854	19.56	19.33	19.46	19.74	19.97
インドルピー (INR)	1.664 ~ 1.939	1.829	1.81	1.80	1.83	1.85	1.88
インドネシアルピア (100IDR)	0.876 ~ 0.999	0.970	0.987	0.997	1.008	1.044	1.047
韓国ウォン (100KRW)	10.368 ~ 11.735	11.024	11.09	11.11	11.35	11.68	11.92
マレーシアリング (MYR)	30.593 ~ 35.497	34.568	35.85	36.76	37.56	38.83	39.04
フィリピンペソ (PHP)	2.451 ~ 2.776	2.625	2.67	2.67	2.75	2.82	2.83
シンガポールドル (SGD)	106.65 ~ 120.03	114.84	115.15	114.94	116.15	118.60	119.88
台湾ドル (TWD)	4.335 ~ 4.976	4.748	4.75	4.75	4.82	4.97	5.08
タイバーツ (THB)	4.018 ~ 4.558	4.449	4.52	4.49	4.58	4.77	4.83
ベトナムドン (10000VND)	0.5646 ~ 0.6365	0.6079	0.61	0.60	0.62	0.63	0.64
<b>中東欧・アフリカ</b>							
ロシアルーブル (RUB)	1.491 ~ 1.907	1.526	1.57	1.53	1.53	1.53	1.53
南アフリカランド (ZAR)	7.588 ~ 8.973	8.531	8.54	8.52	8.68	8.90	9.12
トルコリラ (TRY)	4.071 ~ 4.978	4.461	4.47	4.48	4.58	4.71	4.84
<b>ラテンアメリカ</b>							
ブラジルレアル (BRL)	24.416 ~ 31.200	26.573	26.67	27.03	27.96	28.07	28.18
メキシコペソ (MXN)	6.991 ~ 9.455	7.571	7.76	7.81	7.95	7.93	7.95

注: 1. 実績の欄は2024年10月31日まで。SPOTは11月22日の7時10分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。